



虹が輝くのは、一色一色が光っているから

園長 太田 伸男

12月9日(木)、保護者から参観していただき、「発表会」を行いました。今年度は、3学年合同で発表しました。全員で劇を演じますが、ねらいは学年ごとに設定しました。年少児は自分なりに表現する楽しさを味わうこと、年中児は友達や教師と一緒に表現遊びを楽しむこと、年長児は友達と考えたり工夫したりしながら表現遊びを楽しむことです。



劇のストーリーは、全員で考えました。これまで幼稚園で遊んできたことやみんなで見たい「しぐれ虹」がもとになり、魔法の虹のかけらを拾うと違う動物に変身できるというお話にしました。年長児を中心に、「ノラネコぐんだん」の絵本を参考にして台詞や動作でお家の人を笑わせようと工夫しました。年中児は、友達と一緒にストーリーを考えたり道具

を作ったりしました。年少児は、大きな声で台詞を話し、フラミンゴに変身して踊りました。

全員が主人公で、同じように出番がありました。赤、ピンク、オレンジ、黄色、黄緑、水色、青、紫の8色のかけらを変身森の木の穴に差し込むと、虹のようにきれいでした。劇の終わりに全員で歌った「きみいろ」は、自分だけが持っている色を探そう。みんなの色が合わさると虹のように光る。これからいろんな色と出会うけど自分の色を大切にしていこうという内容で、気持ちを込めて歌いました。



園児に社会性を育てるために、他園と交流会を行って大勢の中で遊ぶ経験をさせていることは園だより「すみれ11月号」でお知らせしました。大勢の中で自分から関りを求め、友達を作る経験が大切だからです。しかしその前提には、個人の心の成長が必要です。

新潟市立幼稚園では、一人一人に自己肯定感をもたせ、きちんと友達関係を育むようにしています。そのようにして育った子は、新しい環境の中でも自分らしさを発揮しつつ、周囲と良好な関係を築けるはずです。市之瀬幼稚園では、卒園した多く子どもたちが学区にある大規模校の荻川小学校に入学しています。保護者や小学校の先生方からは、修了生たちが入学後すぐに友達を作り、学校生活に溶け込むことができていると伺っています。

市之瀬幼稚園は、「ファミリー市之瀬」を合言葉に家庭的な雰囲気の中で、全園児での異年齢保育を積極的に取り入れています。これからも、職員7名で8名の園児を多面的・多角的に読み取り、一人一人の色を大切に丁寧な保育を行ってまいります。